

令和6年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 国 語

番号 観 点	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
	東書	(新しい国語) 109、110、209、210、309、310、409、410、509、609
取 扱 内 容 〔各 学 年 の 目 標 ・ 内 容 等〕 学 習 指 導 要 領 の 総 則 及 び 各 教 科	<ul style="list-style-type: none"> ○ [知識及び技能] の内容については、昔話の読み聞かせを聞くなどして好きな場面を友だちに教える活動、ことわざや故事成語の意味を調べたり使い方を考えたりする活動、相手や場面に応じ敬語や言葉遣いを考えたり使ったりする活動等が取り上げられている。 ○ 話すこと・聞くことについては、思ったことを話したり聞いたりして話をつなぐ活動、司会や提案者等の役割を意識して話し合う活動、学校生活をよりよくする工夫を考え資料を使って提案する活動等が取り上げられている。 ○ 書くことについては、いろいろな乗り物について本で調べて乗り物カードを作る活動、書いた文章を読み返しよいところを確かめる活動、論の進め方を工夫して提案書を書く活動等が取り上げられている。 ○ 読むことについては、物語を読んで好きなところを見付ける活動、文章を読んで目的に合わせて要約し紹介する活動、文章を読んで意見や感想を伝え合い自分の考えを広げる活動等が取り上げられている。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、学習課題を設定し見通しを持たせるとともに、登場人物の様子を思い浮かべながら音読したり、自分の体験と結び付けて筆者の考えを捉えたり、複数の文章を関係づけて読み、分かったことを整理したりするなど、考えを広げたり深めたりする活動等が取り上げられている。 	
内 容 の 構 成 ・ 排 列 ・ 分 量 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成・排列については、第1学年で、登場人物の設定を考えながら物語を書く活動、第2学年で、絵を見て場面のつながりを考えながら物語を書く活動、第3学年で、登場人物の様子や場面を想像して音読で表す活動、第4学年で、登場人物の気持ちを想像して音読で表す活動、第5学年で、意図を明確にして計画的に話し合い、考えを広げる活動、第6学年で、自分の立場を明確して話し合い、考えを広げる活動を取り扱うなど、学年を通じて系統的・発展的に学習できるような工夫がされている。 ○ 内容の分量については、全学年において「話すこと・聞くこと」は5～9教材、「書くこと」は22～25教材、「読むこと」は11～17教材である。総ページ数は298～342ページで、第1学年で前回と同量、第2～6学年で前回比3～7%減である。 	
使 用 上 の 配 慮 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 伝えたいことが相手に伝わるように、工夫して話す活動(第4学年)や相手や目的に応じて情報を集め、パンフレットを作る活動(第6学年)を通して、相手意識や目的意識を明確にするとともに、読書に親しむ習慣や態度を育むため、読書単元「本は友達」を掲載する(全学年)など、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 「言葉の力を集めよう」で当該学年で学習する単元と「言葉の力」を示したり(第2～6学年)、「言葉の力のつながり」で「言葉の力」の系統表を示したり(第3～6学年)するなど、児童が主体的に学習に取り組めるような工夫がなされている。 ○ 独自開発の教科書体を中心に、文字の小さな箇所にはUDフォントを使用したり(全学年)、紙面内の文字や図版などの区別を明確にし、配置や色使いを工夫したり(全学年)するとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載し、単元導入の動画やアニメーション、「話すこと・聞くこと」のモデル動画等を活用できるようにする(第2～6学年)など、使用上の便宜が図られている。 	
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。 ○ 第1～4学年が上下の分冊、第5・6学年が合本になっている。 ○ 伝統的な言語文化に関する教材が全学年に、計34教材取り上げられている。 ○ 北海道に関する記述が、第4～6学年で計6教材に取り上げられている。 ○ 読書活動に関わって、索引の引き方やNDC等で図書館での調べ方が説明されている。 	

令和6年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 国 語

番号 観 点	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
	教出	〈ひろがる言葉 小学国語〉111、112、211、212、311、312、411、412、511、512、611、612
取扱内容 各学年の学習指導要領の目標・内容等		<ul style="list-style-type: none"> ○ [知識及び技能] の内容については、昔話などの読み聞かせを聞いて面白いと思ったところを発表する活動、故事成語等の意味を調べカードを作り相手に紹介する活動、「枕草子」等の古典を音読して昔の人のものの見方や感じ方を知る活動等が取り上げられている。 ○ 話すこと・聞くことについては、話す事柄の順序に気を付けながら発表する活動、役割に気を付けながら話し合う活動、地域の防災についてパネルディスカッションにおいて立場を明確にして話し合う活動等が取り上げられている。 ○ 書くことについては、目標を達成することができるよう、写真を見て想像したことを基に物語を書く活動、想像したことを基に設定や展開を考えながら物語を書く活動、文章全体の展開を工夫して物語を書く活動等が取り上げられている。 ○ 読むことについては、文章と絵を結び付けて読むことのよさについて考えたことを伝え合う活動、登場人物の性格や気持ちの移り変わりについて分かったことを伝え合う活動、伝記を読んで生き方について自分の考えをまとめる活動等が取り上げられている。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、学習課題を設定し見通しを持たせるとともに、登場人物が考えていたことを想像しながら読んだり、大事な言葉や文に気を付けて要約しながら読んだり、筆者の論の進め方についてまとめたりするなど、考えを広げたり深めたりする活動等が取り上げられている。
内容の構成・排列・分量等		<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成・排列については、第1学年で、身の回りの生き物を友達に知らせる文章を書く活動、第2学年で、身の回りで見付けたものを友達に知らせる文章を書く活動、第3学年で、自分の気持ちが相手に伝わるように札状を書く活動、第4学年で、送る相手や伝える目的に合わせた手紙や電子メールを書く活動、第5学年で、意図をもって話を聞いたことを基に考えたことをまとめる活動、第6学年で、相手の思いを考えながら聞き、感想を伝え合う活動を取り扱うなど、学年を通じて系統的・発展的に学習できるような工夫がされている。 ○ 内容の分量については、全学年において「話すこと・聞くこと」は6～10 教材、「書くこと」は13～19 教材、「読むこと」は12～20 教材である。総ページ数は314～348 ページで、第1学年で前回と同量、第2～5 学年で前回比1～3%増、第6 学年で前回比3%減である。
使用上の配慮等		<ul style="list-style-type: none"> ○ 人の話を聞いて、初めて知ったことを友達に伝える活動（第1 学年）や写真や図表を効果的に使い、読む人の興味を引く図鑑を作る活動（第4 学年）を通して、相手意識や目的意識を明確にするとともに、多様なテーマの図書を紹介した「読書の広場」を掲載する（全学年）など、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 「ひろがる言葉」でどのような内容を学び、どのような言葉の力を身に付けるのかを示したり（全学年）、各単元で言語活動の具体的な場面をイラストや図版で示したり（全学年）するなど、児童が主体的に学習に取り組めるような工夫がなされている。 ○ 教科書体を基本としながら、UDに配慮したオリジナルフォントを使用したり（全学年）、色調のバランスや形の上で区別しやすいようカラーUDに配慮したり（全学年）するとともに、1人1 台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載し、児童作品例の別バージョンや補完版、画像等の資料を活用できるようにする（全学年）など、使用上の便宜が図られている。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。 ○ 全学年が上下の分冊になっている。 ○ 伝統的な言語文化に関する教材が全学年に、計20 教材取り上げられている。 ○ 北海道に関する記述が、第2～6 学年で計14 教材に取り上げられている。 ○ 読書活動に関わって、仮想の図書館配置図を用いて説明している（第3 学年）。

令和6年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 国 語

番号 観 点	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
	光村	〈国語〉113、114、213、214、313、314、413、414、513、613
取扱内容 各学年の学習指導要領の総則及び各教科・内容等	<ul style="list-style-type: none"> ○ [知識及び技能] の内容については、昔話の読み聞かせを聞いて面白かったところや出来事について感想を伝え合う活動、短歌や俳句を言葉の響きを楽しみながら音読する活動、日常よく使われる敬語に使い慣れる活動等が取り上げられている。 ○ 話すこと・聞くことについては、友達と相談しながら問題を作ってクイズを出し合う活動、学級全体で話し合いの議題を決め役割を意識しながら話し合う活動、質問して考えを広げ問題点や改善点を明らかにして考えをまとめたりする活動等が取り上げられている。 ○ 書くことについては、知らせたいことを明確にして手紙を書く活動、災害への備えに対する自分の考えを書く活動、相手や目的を考えて引用したり図表を用いたりしてパンフレットを作る活動等が取り上げられている。 ○ 読むことについては、役割を決めて音読したり演じたりする活動、登場人物の気持ちの変化について考えをまとめ交流する活動、構成や表現に着目し作品の世界を想像しながら読む活動等が取り上げられている。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、学習課題を設定し見通しを持たせるとともに、場面や登場人物の様子を想像しながら読んだり、物語を読んで登場人物の気持ちの移り変わりについて考えを伝え合ったり、複数の文章の特徴について考えを伝え合ったりするなど、考えを広げたり深めたりする活動等が取り上げられている。 	
内容の構成・排列・分量等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成・排列については、第1学年で、学校で見付けたものを知らせる文章を書く活動、第2学年で、町の中で見付けたもののよさを知らせる文章を書く活動、第3学年で、相手に必要なことが伝わるように行事を案内する手紙を書く活動、第4学年で、相手に気持ちが伝わるように礼状を書く活動、第5学年で、特定の立場に立って意見を述べ合う活動、第6学年で、様々な考え方を聞いて自分の考えを広げたり深めたりする活動を取り扱うなど、学年を通じて系統的・発展的に学習できるような工夫がされている。 ○ 内容の分量については、全学年において「話すこと・聞くこと」は5～12教材、「書くこと」は21～25教材、「読むこと」は12～18教材である。総ページ数は273～336ページで、第1～4学年で前回比1～3%増、第5学年で前回比1%減、第6学年は前回同量である。 	
使用上の配慮等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 夏休みの出来事を友達に知らせる活動(第1学年)や知らせたいことが読む人に伝わるよう工夫して新聞を作る活動(第4学年)を通して、相手意識や目的意識を明確にするとともに、図書館の活用方法や多様なジャンルの読み物を紹介した「本は友達」を掲載する(全学年)など、児童の学習意欲を高める工夫として適している。 ○ 「国語の学びを見わたそう」で学習の進め方や当該学年で学ぶ言葉の力を示したり(第2～6学年)、「見通しをもとう」で学習過程を明確にしたり(第2～6学年)するなど、児童が主体的に学習に取り組めるような工夫がなされており、大変よくできている。 ○ 自社作成の教科書体や着目させたい箇所及び文字の小さな箇所等にUD書体を使用したり(全学年)、複数の情報の識別が必要な図版の色の組み合わせや色調に配慮したり(全学年)するとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載し、発表や話し合いなどの動画資料、作家へのインタビュー等を活用できるようにする(全学年)など、使用上の便宜が図られている。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。 ○ 第1～4学年が上下の分冊、第5・6学年が合本になっている。 ○ 伝統的な言語文化に関する教材が全学年に、計27教材取り上げられている。 ○ 北海道に関する記述が、第2、第4～6学年で計11教材に取り上げられている。 ○ 読書活動に関わって、本のポップや帯を作る活動等が取り上げられている。 	